

* 感染症対策下における子どもの安心・安全を高めるために *

新型コロナウイルス感染症対策として、感染の拡大のスピードを抑制するため、さまざまな取り組みが行われています。その中で、学校の臨時休業やイベントの中止、いろいろな情報が流れるなど、子どもやその身近にいる大人の生活にも大きな影響が出てきています。

子どもたちの中には、自分や家族も病気になるのではないかと不安を抱きつつ、いつもと異なる反応や行動がみられることがあるかもしれません。これらの反応・行動は一般的なことであることを知っておくことが大切です。

- 腹痛や頭痛、不眠、食欲不振などの身体症状を示す
- いつもより泣いたり、大人にしがみついて離れない
- 急に幼い言動をしたり、夜尿、おもらし、わがままになるなど、いわゆる赤ちゃんがえり
- 遊びの中で起きている出来事を再現する



◇ 感染予防の観点からの子どもための安全な環境づくり

- 定期的な換気
- 3密を避ける(密閉・むんむん：密集・ぎゅうぎゅう：密接・がやがや)
- ドアノブ等、よく触れる箇所の消毒
- 健康観察



◇ 正しい情報を伝えること

感染症の流行や自然災害など大きな出来事が起こった際には、その出来事に関するいろいろな情報やうわさが広がり、そのことよって、どの情報が正しいのかの判断がむずかしくなることがあります。子どもは、よりその影響を受けやすいといえます。

子どもは、認知的にも情緒的にも発達途中であるため、映像の中の出来事を現在の状況ととらえたり、より不安や恐怖を増強することがあります。また、年齢が高くなるにつれ、スマートフォンやインターネットを通して、子どもが自分で情報を得られるため、うわさやデマの被害に遭うリスクが高くなります。子どもに対しては、個々の発達や理解に合わせた情報の提供や正しい情報の取り方について話し合うなど、家族や身近にいる大人のサポートが必要です。



* 感染拡大に対する状況や方針は、以下をご参照ください。

○ 厚生労働省「新型コロナウイルス感染症について」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

◇不安やストレスを抱えた子どもや家族へのコミュニケーション

不安や恐れなど心理的ストレスを抱えている子どもや家族に関わる時には、以下を参考にしてください。

- ニーズや心配事を確認する
- 支援が必要と思われる子どもに注意を向ける
- 安心して落ち着けるよう手助けする
- 自ら話すことを聞く
- 基本的ニーズ（衣・食・住）を満たし、可能な限り日課や習慣を保つ
- 規則正しい生活を保つ
- 室内でも、ストレッチやラジオ体操をするなど少しでも体を動かす工夫を、生活の中に取り入れる
- 信頼できる情報を得られるように手助けする
- 必要な時には、公共サービス、社会的支援につなぐ
- 自分の力で自分を守るように支援する（手洗い、咳エチケット、適度な運動など）



参考資料

○手洗い（厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/dl/poster25b.pdf>

○咳エチケット（厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000187997.html>

○子どものこころの支援「子どものための心理的応急処置」（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）

https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/PFA_191003.pdf

〈この資料は、以下の団体より共同発表されたメッセージをもとに作成しました。〉

一般社団法人 日本臨床心理士会災害支援プロジェクトチーム

一般社団法人 日本公認心理師協会災害支援委員会

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン